私の旅絵日記

平和と交流

美しき中欧の旅

ポーランド（アウシュヴィッツ）・スロヴァキア

の片田舎・ハンガリー

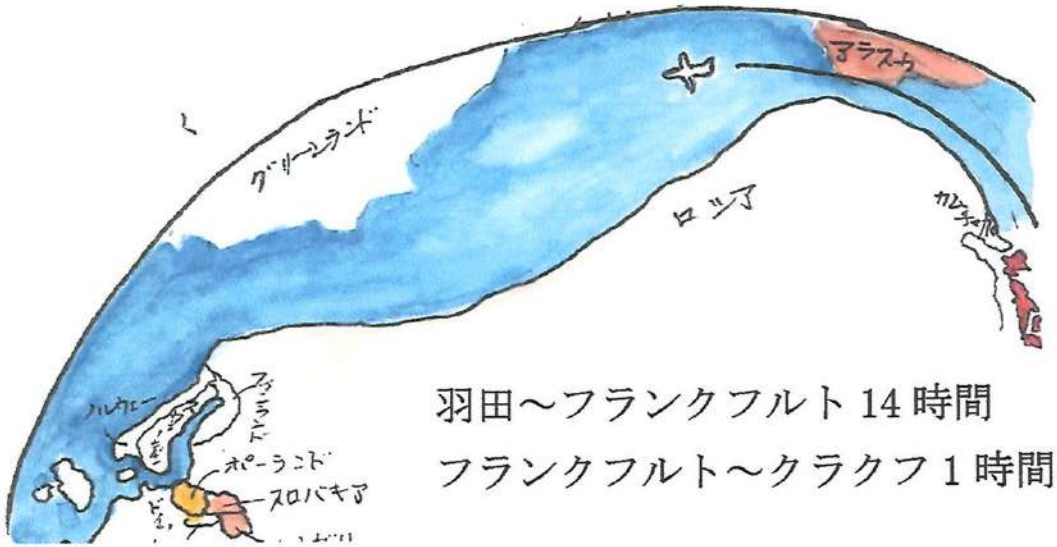
2026年6月8日～15日

渡辺早苗

6/8 am7：30 羽田第3ターミナル到着

久しぶりの羽田、あれっ！どう行くんだっけ？と不安だった。
クロネコヤマトで先に送っておいたスーツケースを受け取り、
「たびせん」の旗を探す。

フライトは北半球周り、そうだ、ロシア上空は通過できない。羽田から太平洋上に出てアラスカ方面から北極海に入りグリーンランド目指してアイスランドの手前でノルウェー・スウェーデン上空を横切りドイツフランクフルトへ。ウクライナ戦争が始まる前は日本の新潟上空から日本海に出て、カムチャッカ半島から入りシベリア上空で真っ白な大地を見たものだった。海外旅行の時はいつも保っちゃんと家にある地球儀を見ながら旅の工程を語った事を思い出す。



羽田〜フランクフルト 14時間
フランクフルト〜クラクフ 1時間半

地球上の人間が仲良く行き来するには、世界が平和でなくてはならないよね、つくづく、戦争はしていてはいけない、やめさせなくてはいけないな。

6/9 ポーランド
アウシュヴィッツ・ビルケナウ訪問

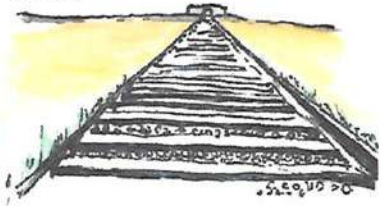
中１時代「アンネの日記」を読んだ。2012 年 5 月「三上満先生と行くオランダ・ベルギーの旅」でアンネ家族の隠れ家を訪問して来た。　そして今年、アンネの最期の地を訪れ、アンネの一生を見届けたい。そんな思いで今度のツアーに参加した。事前学習にと「アンネ・フランク　アウシュヴィッツと私」（早乙女勝元著）「アンネは何故死んだのか」（土山優著）を読んで行った。アウシュヴィッツでは、有名な日本人ガイド中谷剛さんが解説してくれた。

聞けば聞くほど私の疑問は重く深くなる。

- ユダヤ人は何故迫害されてきたのか
- ヒトラーという独裁者だけの問題か
- 人間の尊厳を踏みにじる行為がどーして出来るのだろう
- 今のトランプも同じだ！

本の表紙を見て描いたアンネ。似てないけど笑顔を描きたかった。

この先は
ビルケナウ第二強制収容所



アンネは、ぎゅう詰めの貨車に乗せられ運ばれた。
この線路の向うは・・・・

骨と皮になったアンネ、ついに姉の後を追う様に息を引き取った。1945 年 3 月この半月後、収容所は解放され、長い狂気の戦争は終了した。
15 歳と 9 ヶ月のはかない、切ない、痛ましいアンネの生涯。

6/10 ポーランドの国境を超えスロヴァキアへ

バス am9:00 出発。外は雨、気温 15℃。
今は通信が凄い、このバスも Wi-Fi 入っていて
バスの中で家族へ Line した。

クラクフはスキーのリゾート地、笠井選手は
ここにジャンプの練習で滞在していたそうで、
町並みは富裕層の別荘地みたい。確かに、一軒が
戸建て広く、アパートやマンションらしきビルの
建物がない。

世界遺産の街レヴオチャ到着。絵本のような
町並みスケッチしたかったけど、時間なくて
面白い檻をスケッチ。昔罪人さらし者にされた。

"恥の檻"

今日の夕飯鹿肉

夕食．ビーフコンソメ・鹿肉のワインソース

スピシュ城

小高い丘の上にそびえる中欧最大級の城
1209年、タタール人(モンゴル人)の襲来に
備えて建造された。
今は美しき石の廃墟となっている。

廃墟を守っているのか？
小さな リスか、ネズミか？
広い草原を自由に
チョロチョロ走っていた。

6/11 スロヴァキアの学校訪問

エレン・マロティー・ショーテソバ小学校

チョーかっこいい校長先生が私たちを出迎えてくれました。
スロヴァキアの学校は日本でいう小学生から高校生までが一緒の学校生で現在この学校では400名の児童が通っている。

私達の為に歓迎のパフォーマンスを披露してくれました。
小学１年生のアクロバット・ヒップホップダンス。爽やかな青年達の社交ダンス（旅の現地ガイドの邦子さんの息子さん）はほほえましく素敵でした。

お返しに、私達は
「おお牧場はみどり」
「上を向いて歩こう」を歌った♪

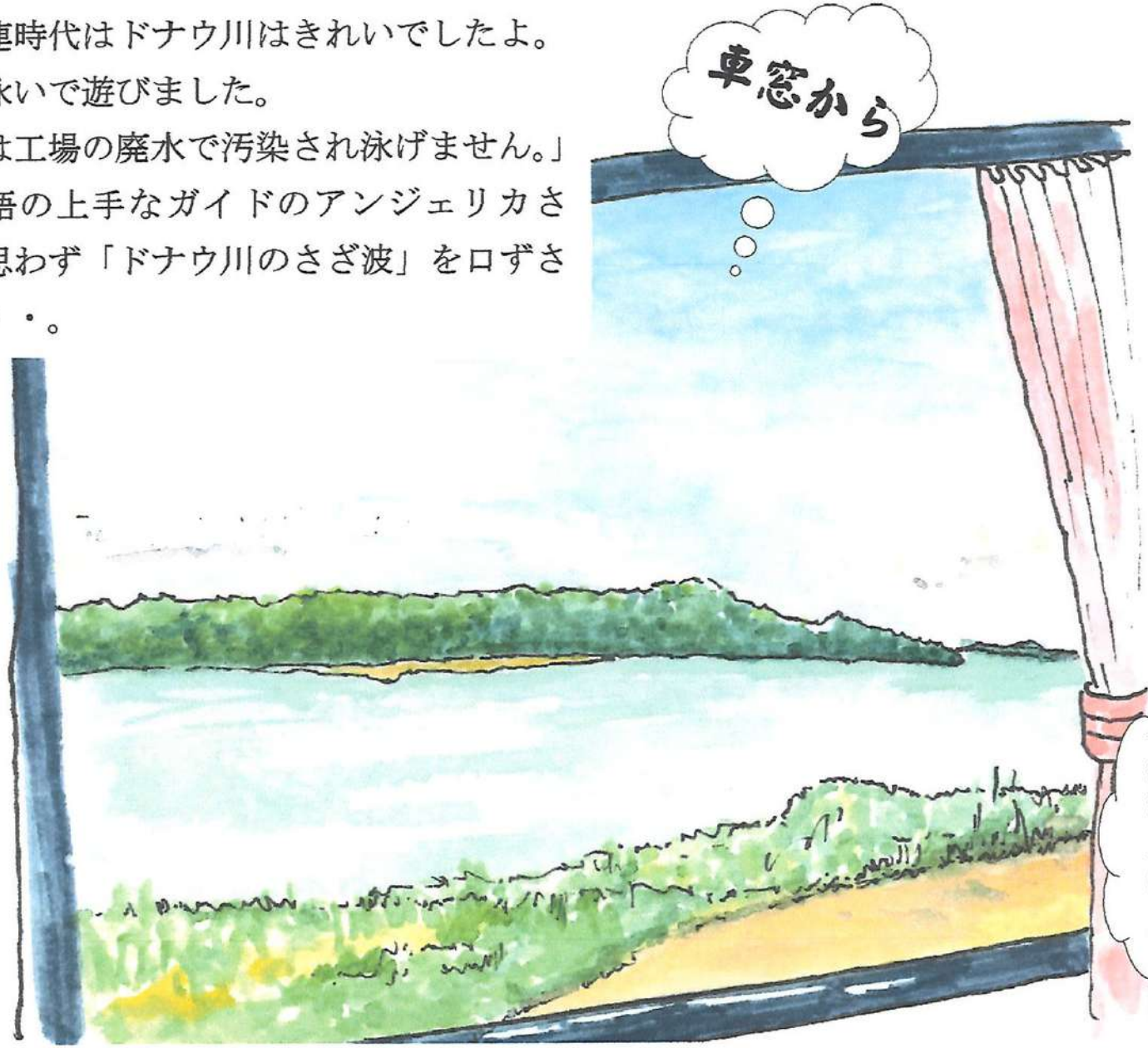
歴史的なバロック様式のお城を改装したホテル。
室の間取り、豪華なベット
公爵夫人になった気分で寝むりについた。

Hotel
Chatoau Béla
ホテル シャトー ベラ

6/12 国境を越えてハンガリーブダペスト

「ソ連時代はドナウ川はきれいでしたよ。昔は泳いで遊びました。

今は工場の廃水で汚染され泳げません。」日本語の上手なガイドのアンジェリカさん。思わず「ドナウ川のさざ波」を口ずさむ・・・。



シナゴーグ訪問

欧州最大のユダヤ教会

1859 年に完成。普通の教会は男性は帽子を脱ぐが、この教会は頭のてっぺんを帽子で隠し、ない人は小さな黒い帽子が用意されている。女性はそのまま帽子をかぶっていても良い。教会のスケッチ出来なかった。

6/13 ブダペスト市内観光

ドナウ川を境に、西に広がるブダ地区、東のペスト地区を結んだくさり橋。幾多の戦火で破壊され、一八四九年再び完成。この橋を渡り切った先の王宮の丘に向かう。

公共交通機関トラム

ドナウ川ディナークルーズ

6/14 帰国モード

ブダペスト✈ウィーン✈成田

飛行 45 分　　飛行 8 時間 31 分

成田への１時間前に出された機内食
　食欲なかったけど完食した。
座席前の飛行ルート見ながら、
そろそろ旅の終わりを確認する。

帰国…１週間速いナー

旅の前半は、アウシュヴイッツ博物館日本人ガイドの中谷剛さんに、重い課題を与えられ、80 年前のあの痛ましい出来事を、どう後世に伝え繋げるか。自分の出来る事は何か、70 年生きて来た自分の人生のこれから迎える最終章をどう生きて行くべきか考えさせられた。原点は戦争だよね、戦争しない、させない！今も地球上で行われている戦争、アンネのような若い多感な青年たちを痛ましい戦争に巻き込ませない為には「戦争反対！」を叫んで行かなければいけないと痛感した旅でした。

しかし、現実は今をどう生きるか！・・・・だ！

旅の後半で訪れたスロヴァキア・ハンガリー。何千年の歴史を持ち、その歴史の中で苦難の時代を乗り越え今を生きている人、文化を知ることが出来た旅でした。この間、気になったのは訪れた国々が社会主義国から脱却した国、ガイドさんの話から、社会主義の時代から 30 年以上も経ち、ソ連の統治になって取り上げられた土地や建物がその後民間に払い下げられて維持できなくなり廃墟となった等どちらの体制になっても抱える国の複雑な問題。

とても中身の濃い旅でした。